



## 大会長講演



# Be ambitious! 学んで前へ

## プロボノの勧め～私のこれまでの地域活動から～

札幌溪仁会リハビリテーション病院 院長

はしもと しげき  
橋本 茂樹

北大農学部卒 産業医大卒 札幌医大リハ部入局、時計台病院、登別厚生年金病院、札幌西円山病院、札幌溪仁会リハ病院副院長 / 臨床統括センター長を経て2022年4月より現職。日本リハ医学会専門医・指導責任者、日本神経学会専門医、日本内科学会臨床認定医、日本体育協会スポーツドクター、日本摂食嚥下リハ学会認定士、産業医、認知症サポート医、キャラバン・メイト。当協会理事、北海道回リハ病棟協会代表幹事、北海道リハ学会幹事・評議員、全国デイ・ケア協会副会長・理事、日本災害リハ支援協会地域 JRAT 組織化支援委員、北海道災害リハ推進協議会幹事、日本リハ病院・施設協会認知症対策検討委員会委員。

札幌市関連：認知症医療推進協議会副会長、医師会理事・地域福祉部長、社会福祉審議会委員、地域福祉社会計画審議会委員、介護保険事業計画推進委員会委員、精神保健福祉審議会委員、医療的ケア児支援検討会委員、桑園認知症ケア研究会代表世話人。

北海道・札幌で私が多くの仲間たちと行ってきた地域活動、プロボノ（職業上のスキルや経験を活かして取り組む社会貢献）活動の話をさせていただきます。

### 522万人：北海道全域の仲間との連携づくり ～北海道回復期リハビリテーション病棟協議会

時計台病院時代（写真1）、登別病院での勤務後2007年、私は再び札幌の街に戻ってきた。まず、手掛けたのが全道に点在する回リハ病棟の質の向上だ。中核になる方たちに声がけし「北海道回復期リハビリテーション病棟協議会」を立ち上げた。第1回研修会の特別講演には故石川 誠さんを招いた。ビール園で懇親会。全道の参加者と石川さんを囲んで回リハ病棟、リハ病院の質向上の話で大いに盛り上がり、元気をいただいた。以後、年2、3回研修会・研究大会を重ねるうち、仲間が増えた。

### 195万人：札幌市内での連携づくり ～のみこみ安心ネット・札幌

超高齢社会での一番の押さえどころは在宅での食支援・栄養管理と活動維持だと常々考えていた。2013年、人口195万の札幌市内で、遅れていた食支援体制を構築する目的で「のみこみ安心ネット・札幌」を設立。研修会を年3～4回行いながら地域で活動できる「食支援地域リーダー」づくりを推進した。

同時に札幌市内の10区に赴き食支援の重要性を啓発する活動を展開。講演を行い各区内にたくさん

の「食支援協力病院」を置くことができた。この連携の会の世話人は医師、歯科医、ST、OT、PT、看護師、管理栄養士、歯科技工士、歯科衛生士、MSW、CW、薬剤師など多種多様の専門職で、それぞれの専門職団体に「在宅での食支援には多職種チームの連携が不可欠です」と連携を要請。各団体代表の参加を得た。研修会参加者や世話人からは各地域で食支援リーダーとして活躍する人が多く生まれた。

### 25万人：中央区での連携づくり～中央区 在宅支援リハビリテーション病院連絡協議会

2017年、札幌市中央区に開院した新病院へ移った私は次に中央区での連携づくりを模索した。幸い、札幌市医師会の中央区東・西両支部の協力を得られ、中央区にある回リハ病棟をもつ6病院で「中央区在宅支援リハビリテーション病院連絡会」を設立。中央区3か所の地域包括支援センターとの定期連絡会が始まり、リハ的視点で地域高齢者の在宅生活を維持・支援するための協力、連携づくりを進めていった。

2019年、同地域包括支援センター下の介護予防センターの自主体操継続チームが実施する「生き生き運動教室」への協力が決まり、6病院で分担して開催場所の提供や体操指導スタッフ派遣などに協力した。区内37病院に呼びかけ管理栄養士に参加いただき、2回のシンポジウムの開催後、同区内での「食支援チーム」発足にも漕ぎつけた。こうした活動がう

写真1  
プロボノ駆け出し時代の私、家族会の旅行に同行して(1990年)。障がいをもった「友」の笑顔が私の原点



まくいけば、札幌市内の他区でも同じようにできる…。モデル構築に向けた私たちのトライだった。

### 3万人：桑園地区で認知症の人にやさしい まちづくり「オレンジ桑園」の活動

2022年、さらに地域をすばめ、病院のある人口3万人の中央区桑園地区の有志に声をかけ、桑園認知症ケア研究会、通称「オレンジ桑園」を立ち上げた。認知症の人が住みやすいまちづくりの活動である。認知症は高次脳機能障害をベースとする進行性の疾患。つまり、認知症の人は、障がい者である。認知症の人を地域で診る＝認知症の人にやさしいまちは、障がい者・高齢者にやさしいまちでもあるはずだ。

桑園地区地域包括支援センターの所長、札幌市立大学看護学部先生、リハ専門学校先生、まちづくり支援センターの所長、地域の薬局薬剤師、認知症家族の会の役員、訪問看護スタッフ(認知症看護認定)、認知症デイサービス事業所の所長、認知症サポート医・等々。共に活動する仲間である。

桑園地区にあるホームセンターDCM、イオンショッピングセンターでの月1回の「認知症ケア相談会」を中心に、市民一般、DCMやイオンの職員、桑園地区の薬局職員、市大看護学部・リハ専門校の学生などを対象とした「認知症サポーター養成講座」、認知症の方たちとの食事会「みんなでランチ」(図、写真2・3)、ラン伴参加などを展開。2024年、札幌市で始まったチームオレンジ事業の1つ「認知症

図、写真2・3「みんなでランチ」(2023年)。認知症の人も、家族も、ボランティアも、ビールで乾杯!

サポーター・ステップアップ講座」への講師協力、「スマイルオレンジ・チーム桑園」での“立ち寄れる場所”づくり、「スローショッピング」のできる認知症にやさしい協力店を桑園地区に増やす活動を展開している。

### プロボノの勤め～共生社会、共生の地域づくり に向けた社会貢献活動がますます大切な時代に

展開範囲は北海道全域⇒札幌市内⇒中央区⇒桑園地区と徐々に狭くなり、活動目的はリハサービスの向上・リハ的教育システムづくり⇒地域での食支援ネットワークづくり⇒地域での介護予防・住民の活動協力と栄養管理⇒住民への直接的働きかけによる共生社会活動一と、現場に近づいてきた。

障がい者、高齢者、認知症の方へ寄り添い、支え合う。さまざまな違いをもつ人々が、それぞれの文化やアイデンティティの多元性を互いに認め合い、対等な関係を築きながら、ともに生きる。そうした共生社会、共生の地域づくりへのプロボノ活動が、これからもっともっと大切になる。この先も一歩先を見据えながら、多くの仲間たちと共に私のプロボノ・地域リハの活動は続く。